

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>松尾太加志 (まつお たかし)</p>	<p>所 属</p>	<p>北九州市立大学文学部 教授</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>社団法人日本心理学会「医療安全の心理学研究会」 ワークショップ および 研究会</p>		
<p>成 果 概 要</p>	<p><b>1. ワークショップ</b>  「医療事故防止に心理学はどのように貢献できるか 11～ヒューマンエラーの責任に関する社会心理学的アプローチ」  開催日時 2010年9月22日 9:30-11:30  場所 日本心理学会大会会場  参加者 会員 35名 非会員 5名  &lt;集会等の目的・成果等&gt;  このWSでは、スウェーデンの産業心理学者が著した『ヒューマンエラーは裁けるか』の監訳者の芳賀繁氏による書籍の概要説明と問題提起の後、「後知恵バイアス」(桑山恵真氏)と「日本人の責任判断の特徴」(膳場百合子氏)に関する研究知見を報告いただいた。そして、これらの社会心理学的視点を中心に、ヒューマンエラーについて刑事責任を問うことの是非や課題について、エアラインの機長経験者の立場(本江 彰氏)とヒューマンファクター研究の立場(大橋智樹氏)の指定討論者を交えて議論を行った。  近年、わが国の医療界や航空界では、事故に関わった専門職が刑事責任を問われる事例があり、航空関係者や医師たちの間に危機感が生じ、上記書籍にも関心が高まっており、本WSの議論は時宜を得たものであった。桑山氏、膳場氏の報告より社会心理学的視点からこの問題を深化させうることを示された。大橋氏と本江氏の指摘により、議論が深められた。</p> <p><b>2. 研究会</b>  「米国における航空機等による事故被害者の支援体制について」  開催日時 2010年9月20日 18:00-20:00  場所 大阪研修センター  参加者 会員 10名、非会員 5名  &lt;集会の目的と内容&gt;  本研究会は、日本心理学会ワークショップ開催時期にあわせて、毎年実施しているものである。米国航空業界における事故被害者へのサポートについて米国で情報収集をしてこられた垣本由紀子氏(日本ヒューマンファクター研究所)からの話題提供をいただいた。米国の組織的な航空機事故被害者へのサポートのあり方についての貴重な情報を得て、今後のわが国におけるサポートについて、医療界や他産業でのサポートへの示唆も得られる率直なディスカッションが行われた。</p>		